

重要文化財
今西家書院
(いまにしけしよん)



①歴史・概要

- ・元は興福寺大乘院に仕えた僧・福智院家の居宅でした。庭に面する2室は特に古く、室町時代のもので、大乘院から移築された可能性もあります。
- ・この2室は、書院造の初期の遺構として重要文化財に指定されています。2室だけ指定されている、とても珍しい例です。

②見どころ

書院造の座敷の他にも、茶室、庭園、東に隣接する町家や酒蔵など、見どころいっぱい！

書院造

日本の住宅は、寝殿造から書院造へと発展しました。両者を比べたのが下の表。書院造が現代の和室に広く受け継がれていることがわかります。

	寝殿造	書院造
成立年代	平安時代	室町時代
柱	円柱	角柱
ゆ か	板敷き	畳敷き詰め
天 井	なし	あり
間仕切	少ない	多い
建 具	蔀(しとみ)	障子・襖
とこ・棚	なし	あり
入 口	中門	式台・玄関

今西家書院の大きな見どころは、500年以上前の建物なのに、現代の和室とほとんど変わらない点。

ただし、雨戸ではなく蔀戸があるのは、寝殿造の名残です。

子持障子

ひとつの溝に障子は2枚のふしぎな障子。工具が発達していなかった昔、溝を彫るのは大変でした。

そんな中で考え出された障子です。どんな仕組みか、よく観察してみてください。

酒蔵

今西家は明治時代から東隣の敷地で酒造業を営んできました。「春鹿」は清酒発祥の地・奈良を代表する日本酒のひとつです。



町家

東隣の町家は天保年間（1830～44）頃の建築といわれています。太い格子に虫籠窓、軒先には酒蔵のしるしの杉玉があります。奈良町を代表する大規模な町家のひとつです。

今西家書院は、町家ではありません。武家・公家・僧侶・神官等の家と、町人が暮らす町家、農民が暮らす農家は、つくりが異なっていました。

書院造は、庶民の町家や農家にも広く取り入れられます。しかし、玄関（主人や客用の板間付き出入口）の設置や長押の使用などは、庶民の家では明治になるまで許されていませんでした。